



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院より、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

携帯サイトへ！



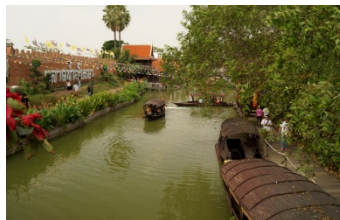
UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2016

今年で7回目となる米国薬学研修（平成28年3月6日～3月17日）を本学姉妹校であるカリフォルニア大学リバーサイド校エクステンション（UCR Extension）で実施しました。エクステンションセンターを拠点とし、UCRメディカルセンター、UCRキャンパスやローマリンダ大学医学部付属薬局、ドラッグストア・調剤薬局（Walgreens, Target corp.）、医療関連企業（Abeomics Inc., Sparsha Pharma International Pvt Ltd., Nitto Denko Technical Corporation）を訪問しました。



交換留学制度 スタート！ タイ王国・チュラロンコン大学薬学部へ留学

2015年度より、薬学部交換留学制度がスタートしました。今回タイ王国・チュラロンコン大学（1917年設立、タイ王国で最も古い歴史をもつ国立大学）薬学部 国際共同教育 社会薬学部門に新村糧くん（当時5年）が約3ヶ月間（2016年1月7日～3月13日）の留学を行いました。



2017年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター

TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>

「踏み出す勇氣」と「自ら考えて行動する力」 国際教育プログラムで感じたこと



本日は、交換留学制度によりタイ王国・チュラロンコン大学薬学部で留学した新村くんと、UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2016に参加した川田くん、小暮さん、宗村さんにお話を伺いました。

皆さんが、国際教育プログラムに参加しようと思ったきっかけは何ですか？

(新村) 外国で学びたい！と大学に入学してから、ずっと思っていました。文化も含めて多くのことを学びたかったので、留学を経験した友達や知り合いの話を聞いて、海外で、その国の生活や国民性などを学びたいと思っていました。

(川田) 新村くんは前向きだね。僕は、はじめは全く興味なかったな。入学してから、機会がある毎にUCR-JIU Pharmacy Internship Programの説明会があったんですけど……、「楽しそうだけど、勉強になるのかな?」「本当に意味あるの?」ってずっと思っていました……。でも、あるとき両親が「大学が用意しているものがあるなら、経験してくれば良い」「学生にしか経験できないことがきっとある!」と強く勧めてくれました。参加することを決断してから、実は「参加したかった自分」がいることに気が付きましたね。

(小暮) 私は、1年生のときから興味があって……、楽しそうだし、参加してみたいな～って思ってたんですけど、海外だし、そんなに英語ができないし……。ずっと不安の方が勝っていました。でも高学年になると自分の周りの友達も参加するようになってきたので、思い切って参加してみました!

(宗村) 私も小暮さんと一緒かな。確かに海外は言葉も含めて不安があるよね……。でも、アメリカの医療や映画、音楽などの文化に興味があったので、良い機会だと思って参加しました。

参加するために準備したことはありますか？

(新村)僕は、タイ王国・チュラロンコン大学薬学部へ約3ヶ月間の留学だったので、準備としては英語の勉強ですね。TOEIC やインターネット英会話、それと海外ドラマを見て勉強しました。

(宗村) 海外ドラマは、退屈しないし、勉強になるのでうまく活用できると良いよね! そのおかげで、私も「聞く力」が向上しました。

(小暮) 私は英語が苦手だから……。でも参加すると決めてからは、とにかく英語に触れる機会を増やしました。英語力がどのくらい向上したのかわからないけど、「前向きな気持ちと行動」が大事だと思ったから……。

(川田) 「前向きな気持ちと行動」か、確かにそれが大事だね。英語力をすぐに向上できなくても、勉強するきっかけにすることが大事なんだと思うよ。僕は、英語もそうだけど、今まで大学で習った「薬

学」や「薬剤師」について復習してみたんだ。授業でアメリカの医療制度について勉強することもあったけど、実際にアメリカに行って日本との違いを学びたいと思ったから。

(小暮) でも、みんな参加することに不安はなかったの?

(新村) 僕の場合は、薬学部の交換留学制度をはじめ利用したケースだったから……。決まっていなくても多くて……そういう意味で不安だったな。でも、その分「まだ見ぬ世界」に対する期待の方が大きかったね。

(小暮) 私の一番の不安といえば、ホームステイだったな。だって知らない外国人の家族と一緒に生活するんだよ! 参加する前は、言葉も生活も……不安がいっぱいだったけど、ホームステイ先の家族と会うと何だか安心して……。初対面なのに、顔を見ると安心する……。不思議な感覚だったな。それと、その家族には赤ちゃんがいて、家族の生活は赤ちゃんを中心にドタバタしてたけれど、すごく楽しかったです! 英語も自信なかったけど、意外となんとかなったな。まあ、赤ちゃんよりは、英語を話せるからね!

(川田) おいおい……。

(宗村) ホームステイを受け入れる家庭は、きっと私たちがみたいと言葉や文化に慣れていない人達を受け入れている経験があって、それを受け止める「大きな心」を持っているんだと思うよ。

(新村) たしかにそうだね。じゃ、一番大事な準備は、「踏み出す勇氣」と「自ら考えて行動する力」ってことかな。

(宗村) そうだね! まず、言葉よりも気持ちと行動だね!

国際教育プログラムに参加して、「何」を感じましたか？

(新村) タイで一番感じたのは、「医療格差」ですね。僕は、社会薬学の研究室に所属したので、現地の地域医療に触れる機会が数多くあり、その中で「受けられる医療」の格差を感じました。もちろん、保険制度や経済的な理由もあるけど、日本のように全国どここの医療機関でも同様の医療を受けられることは、素晴らしいと改めて感じました。

(川田) 「医療格差」……。アメリカも同じだったな。医療保険制度改革が行われている影響までは感じら

れなかったけど、加入している保険の種類によって「受けられる医療」が異なることは実感できたよ。

(宗村) 国によって医療制度に違いがあるからだね。私たちの住む日本では、国民皆保険制度っていう優れた医療制度があるけど、日本の制度を他国に導入しても色々な問題が起こると思うよ。それぞれ国ごとに文化や経済、考え方などに違いがあるし……。どんな制度にも利点と欠点があると思うから、その国に合わせた対応が必要になるんだと思う。きっとタイやアメリカの医療制度の中で、日本が参考にすべき部分もたくさんあると思うよ。

(小暮) そうだね、別の国のルールをそのまま押し付けるのではなく、その国や地域に合わせた制度であることが一番大切なのかもしれない……。色々な国の文化や制度の多様性を、柔軟な視点で学ぶことができれば、物事の本質に近づくことができるのかもしれないね!

(川田) まさに、グローバルマインドだね! 僕も、海外に行くとき色々な考え方や価値観に出会えると思うんだ。それによって、きっと異なる感性に触れることができる。そして、多様性を理解し、柔軟で広い視野を得ることで、客観的な比較を行うことができる。それが、はじまりだと思うよ。

(新村) 授業で習う「他者理解」と同じだね。でも、コミュニケーションにおいては、「自己理解」も重要だよ。自分自身を客観視できることが「他者理解」に繋がっていくと思うんだ。そのためには、日本の医療制度についても、もう一度深く学ぶ必要があるね。

(宗村) なるほど……。海外に行くことで異なる文化や制度を学び、そのことで改めて日本の文化や制度について客観的視点で学ぶことができるんだね!

(小暮) やっぱ、実際に海外に行くって大事なんだね。授業やインターネットだけでは得られない「何か」が、そこにはあるんだと思う。

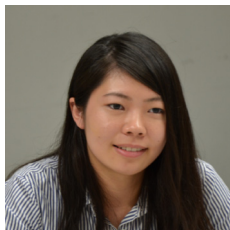
まだ参加していない学生へメッセージをお願いします!

(新村)僕は、このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。自分にとって大きな挑戦でしたが、得られたものは更に大きなものでした。何事も挑戦することが大事だと思います。どんなに小さくても良いので「成功体験」を積み重ねることが自信になると思います。是非、挑戦して下さい!

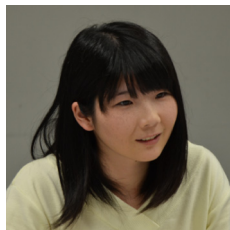
(宗村) はじめは、英語に抵抗があるかもしれないけど、そんなに身構えなくても平気かな。まずは、飛び込んでみるのが大事だと思います。このプログラムに参加したこともあり、将来は外国人患者に対応できる薬剤師になりたいと思っています。実際に行かないと感じられないことが必ずありますよ!

(小暮) 私は、なかなか積極的になれない部分があるので……。海外行くこと自体が挑戦でした。不安がいっぱいだった私も、参加して良かったと思っています。参加を決めた時の気持ちを忘れないで、これからも色々なことに挑戦していきなさい! とにかく、「前向きな気持ちと行動」が大事だと思います。

(川田) 参加するきっかけは、軽い気持ちで良いと思います。少しでも興味がある人、自分を変えたい人は、参加する価値があると思います。そこにあるものは、そこに行かないと感じられません。今しかできないことは、今やるべきだと思います。日本の医療を知るには、海外の医療を学ぶべきだと思います。皆さん、是非参加しましょう!



宗村 桃子(6年)
九段中等教育学校出身(東京)



小暮 紗苗(6年)
中央学院高校出身(千葉)



川田 翼(6年)
名寄高校出身(北海道)



新村 糧(6年)
長野西高校出身(長野)